

《資料》

早期体験実習におけるルーブリック評価の導入

前田 節子, 杉浦 美佐子, 高植 幸子, 井野 恭子, 奥野 友紀,
李 秀訂, 武田 智美, 鈴木 詩織, 箭野 育子

椋山女学園大学看護学部看護学科

要 旨

【目的】2017年から1年次に開講される早期体験実習にルーブリック評価を導入している。その実際の紹介と本実習におけるルーブリック評価の教育的効果および今後の課題について報告する。

【方法】実習目標に対する細目標（細項目）それぞれに対し、具体的な評価基準を作成し、実習前に提示した。また、一部学生参加型のルーブリック評価作成とした。

【結果・まとめ】早期体験実習に学生参加型のルーブリック評価を導入して2年、「学生に期待されていること、期待していること」について、実習前に教員と学生間での共有ができた。また、学生にとっては、どの程度まで努力したらよいのか、教員にとっては指導の方向づけとなり、双方の行動指針が明確になるなどの教育的効果が期待される。

キーワード：ルーブリック評価, 臨床実習, アクティブ・ラーニング